

目次

はじめに	1
第一章	栗戦書 大器晩成型のジェネラリスト 3
第二章	汪 洋 市場化推進改革論者 9
第三章	王滬寧 三代帝師 17
第四章	趙楽際 反腐敗の新たな旗手 31
第五章	韓 正 上海一筋 40 年から筆頭副総理へ 39

はじめに

2017年10月に中国共産党第19回全国代表大会（通称：党大会）とそれに続いて第一回中央委員会全体会議（通称：一中全会）が開かれ、中国を治める新しい指導部が発足した。中国共産党の指導部とは、一般的に中央委員会が選出する政治局と、その中から選ばれる最高指導部の政治局常務委員会のことを指す。

今回の党大会と一中全会で、25名から成る政治局と7名から成る政治局常務委員会の大規模なメンバー交代がなされた。新指導部のメンバーの多くは知名度が高くなく、それぞれの人物像は必ずしも知られていない。そこで筆者は2018年2月以降、公益財団法人日本国際問題研究所のウェブサイトにおいて、中国共産党の新指導部の注目人物について、（1）経歴、（2）人脈、（3）政策、思想的傾向、（4）今後の展望の四つの視点から紹介する「中国新指導部の“プロフィール”」と題したコラムを連載している¹。連載は現在も継続中である。本報告書は新政治局常務委員の5名（栗戦書、汪洋、王滬寧、趙樂際、韓正）を紹介した記事を基に情報を更新し、加筆修正した中間報告である。

本報告書の特徴は豊富な注記にある。エリート政治は往々にしてイメージや噂、推測によって語られ、根拠に欠けるいわゆる政治ゴシップが蔓延しがちである。本報告書では、極力信頼できる公開情報によって人物像を描き、読者による検証のために、根拠となる資料を注記として残した。また、本文と直接関係ない事柄についても、人物や中国政治を理解する上で有益だと思われる情報については、注記に盛り込んだ。

筆者は2017年の党大会開催時に、『外交』誌に本報告書と同様の趣旨の短文を寄せている。紙幅の制限のため、情報量は少なくなっているが、そちらも合わせて参考にされたい²。

1 日本国際問題研究所ウェブコラム（<http://www2.jiia.or.jp/RESR/column.php>）。

2 李昊「最高指導部 政治局常務委員の横顔」『外交』第46号、2017年、19-23頁。

本報告書で紹介する人物の公式経歴は、2017年の党大会開催後及び2018年春の全国人民代表大会と人民政治協商会議全国委員会開催後の『人民日報』に掲載されている³。本報告書の記述は、特別に言及がない限り、これら公式経歴に基づく。同様の公式経歴は、国营通信社である新華社のウェブページや、『人民日報』社が運営する中国共産党の公式ウェブページにも掲載されている⁴。

なお、本報告書において引用したウェブ記事は全て脚注にてURLを記したが、いずれも2019年3月26日が最終閲覧日である。

3 『人民日報』2017年10月26日、2018年3月18日、3月19日、3月20日。

4 「十九届中央領導機構」新華網 (<http://www.xinhuanet.com/politics/leaders/index.htm>)、「中国政要」中国共産党新聞網 (<http://cpc.people.com.cn/GB/64162/394696/index.html>)。